

兵庫県次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会 [第2回総会] 議 事 要 旨

I 日 時：平成30年3月27日（火）10：00～12：00

II 場 所：ラッセホール2階 ルージュローズ

III 出席者

別紙1のとおり

IV 議 事

1 平成29年度 プロジェクト事業実施状況

2 後継プロジェクト（ひょうご次世代産業高度化プロジェクト）について

V 主な内容

1 開会

2 兵庫県産業労働部長あいさつ

3 議事

(1) 事務局資料説明

事務局から議事1、2について資料をもとに説明

(2) 意見交換

別紙2のとおり

4 閉会

出席者 36 名（構成員 26 名、県・推進協議会事務局 10 名）

構成員（26名）

森下 徹	兵庫県経営者協会事務局長
荒木 俊光	公益社団法人兵庫工業会常務理事
内田 雅康	兵庫県中小企業団体中央会事務局長
瀬川 里志	兵庫県立工業技術センター次長（総括担当）兼総務部長
飯塚 昌弘	公益財団法人新産業創造研究機構理事兼事務局長
藤原 政幸	公益財団法人先端医療振興財団常務理事
山田 猛	一般財団法人近畿高エネルギー加工技術研究所専務理事
安井 宏	公益財団法人計算科学振興財団専務理事
佐々木 久隆	公益財団法人ひょうご産業活性化センター創業推進部取引振興課長
後藤 章暢	公益財団法人神戸国際医療交流財団代表理事
小林 滋	特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構理事
清家 慶只	一般財団法人兵庫県雇用開発協会専務理事兼事務局長
高坂 誠	兵庫県立大学理事兼副学長
小高 裕之	神戸大学学術・産業イノベーション創造本部産学連携・知財部門長
小川 賢一	株式会社三井住友銀行公共・金融法人部（神戸）部長
銅金 与父	株式会社三菱東京UFJ銀行大阪公務部長
井上 鉄也	株式会社みずほ銀行神戸支店神戸第一部渉外3課課長
濱中 宏法	播州信用金庫経営企画部長
森田 成敏	株式会社みなと銀行地域戦略部長
澤野 年哉	但陽信用金庫事業支援部担当部長
三宅 智章	姫路信用金庫常勤理事
岡村 義忠	兵庫県信用組合理事融資部長
竹中 郁子	兵庫労働局職業安定部長
三重野 雅文	神戸市医療産業都市部長
片山 安孝	兵庫県産業労働部長
安部 齊	兵庫県産業労働部政策労働局長

県・推進協議会事務局（10名）

竹村 英樹	産業労働部産業振興局長
計倉 浩寿	産業労働部政策労働局産業政策課長
有吉 智香	〃 産業政策課企画調整参事
小山 達也	〃 産業政策課政策班長
城 友美子	〃 しごと支援課長
淵上 茂也	〃 産業振興局工業振興課長
宮口 美範	〃 新産業課長
谷口 幸史	〃 産業立地室長
杉浦 聡	企画県民部科学情報局科学振興課長
安達 正志	推進協議会事務局主任プロジェクト推進員

議事要旨（意見交換）

○事務局

ただいまから、次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会、平成29年度第2回総会を開催します。本会議は、前回と同様、本県の取り扱いに準じ、公開とします。それでは、開会にあたりまして、推進協議会会長の兵庫県産業労働部長から、ご挨拶を申し上げます。

産業労働部長あいさつ

○事務局

それでは、議事に入ります。議事の一つ目は、平成29年度プロジェクト事業実施状況です。本プロジェクトは今年度が最終年度となるため、3年間の実績も含め、資料1に基づき、産業政策課企画調整参事から説明します。

産業政策課企画調整参事の説明

○事務局

続きまして、議事の一つ目、後継プロジェクトについてです。資料2に基づき、事業の概要を産業政策課企画調整参事、個別の事業については各事業所管課室から説明します。事業実施主体の皆様から補足や、事業取組に対するご意見がありましたら、全事業説明後に時間を設けていますので、よろしくをお願いします。

産業政策課企画調整参事、各事業所管課室長の説明

○事務局

以上で全事業の取組内容について説明しました。それでは、ここまでの説明について、事業実施主体の皆様から補足、事業内容へのご意見等があればご発言をお願いします。

○A委員

今後、このプロジェクトで実施する内容とそれを取り巻く背景を説明します。私どもは、航空機、環境・エネルギー、ロボット・AI、健康・医療、IoTという分野に注力しています。

航空機産業については、これまで人材育成に力を入れてきました。来年度以降は、開発や試作にも力を入れていきます。あるいは展示会等、PRの場も大事だと考えています。

環境・エネルギーについては、特に水素に力を入れていきたいと考えています。今年までのプロジェクトでは、セミナー等により水素に関して知ってもらい、参入してもらおうという地場を築いてきました。地元企業を訪問して話を聞いていると、水素が普及するのは大分先の話になっていて、水素がガスタービンなど発電に使われるようになって、初めて大量に必要になり水素産業が成立します。これは、参加する企業にとっては、すぐに売り上げが立たないことに

なりますので、人材育成や開発、試作に補助金があればという声が多くあります。こうした部分は、この事業で提供していければと思います。

ロボットについては、導入窓口による支援をしていて感じることは、事業分野が非常に多いということです。今までロボットというと、製造現場だけに導入されていたイメージがありますが、ホテルで使われるとなど裾野がかなり広がっています。今までは導入していないが、これから導入したいという企業はかなり多くいます。地元企業だけでもかなりあります。その背景には、少子高齢化やインバウンドの増加があります。例えば、ホテルに一度に大量のお客さんが多くの荷物を持ってやって来られると、ますますロボットが必要となり、ロボットと人の仕事をきっちり分けて、人の雇用促進にも繋げていけたらと考えています。

健康・医療については、これまでどおり参入しようという企業を支援していきます。

IoTについては、導入しなければいけないという危機感を持っている企業が非常に多いです。来年度からのプロジェクトでは、しっかりと制度としてやっていきたいと考えています。さらにそれを一歩進め、実際に導入する段階にまで進めていけたらと考えています。

また、知財に関しても、これまで相談窓口をしてきました。企業に意見を伺うと、知財の大事さを認識していないという面も明らかになってきました。そこで、来年度からの事業でも、知財の大事さを分かってもらうための活動にも力を入れていきたいと思っています。

○県産業労働部長

ご要望もありましたので、水素については、試作等で今後は対処できるように拡大していきたいと思っています。それから、AI・IoTの関係で、各業界団体と話をしている一番大きな課題は、やはり人手不足対策だと言われます。もともと若者は県外に流出しています。高齢者や女性、外国人の活用もなかなか難しい状況で、生産性向上という点でAI・IoTに注目しています。中小企業にとって、何をしたらいいかわからない、大企業から言ってくる話は大規模な投資だということで、身の丈に合ったAI・IoT導入が必要です。県でなかなかノウハウがありませんので、ぜひその辺りのご支援をよろしくお願いします。

○B委員

参加企業について、現在の369社の登録を継続するということがありますが、新規登録はできるでしょうか。特に、私ども大学発のベンチャーがここ2、3年で5、6社出てきており、そういう会社が新たに登録できるか教えてください。

○事務局

随時、登録は受け付けています。お声をかけてもらえたら私どもから詳しい説明もしますし、直接登録書を提出してもらっても結構です。登録のない企業は、このプロジェクトの補助メニューやコーディネート等の支援を受けられま

せんので、登録をお願いします。様々なベンチャー企業の方にとって、これから先が見えるようなお手伝いをしていきたいと思っておりますので、ぜひご参画してもらえればと考えています。

〇C委員

神戸市では人口減少が拡大しています。神戸市には大学の数が全国的にも多いですが、大学卒業時に東京や大阪に若者が流出しています。この流れの一方で、神戸医療産業都市への進出企業は344社ありますが、若手人材が確保できないという声はずっと出ています。そこを何とかできないかということで、資料13番の新たな人材エコシステムの構築事業を提案しています。

ただ単に企業と学生のマッチングに留まるのではなく、医療産業都市に進出してきた企業の若手研究者と交流をしてもらうといったグループも今できつつあります。理化学研究所で研究をしている方は、研究が一定期間終われば、またどこかへ行かないといけないという状況です。今は大学に行く流れが多いですが、海外の場合は、研究機関と企業を行ったり来たりするような流れもあります。そういったところを新たな事業でマッチングできないかということで提案しています。

また、資料14番のリサーチコンプレックスについても共通しますが、こういう事業の若い研究者や大学の研究者をいかに神戸・兵庫に留めるかが大事です。活動するフィールドは大分できつつあると思っておりますので、兵庫県、民間企業、神戸大学等と連携し、構築していければと思います。

〇県産業労働部長

私どもは、神戸市では医療産業都市をうまく進めていると思っておりますので、引き続きお願いします。13番と14番の事業については、ビッグデータの活用や、人手不足の問題が大いにあると思っておりますので、この辺りをうまくやっていきたいと思っております。

各業界を回ると、とにかく理系の人材が不足しているとずっと言われます。ここで21番の次世代産業人材確保推進事業で、文系は大学院卒、理系は大学卒の方を新たに雇用した場合、50万円から100万円を補助します。工業高校の学生も対象です。優秀な学生は県外に出てしまうと思っておりますが、ぜひ県内就職を勧めてもらえますようお願いいたします。

〇D委員

若手の皆さんは賢いです。学生の組織と付き合っていますが、学生の方々は賢くて、自分の将来を考えて良い会社に行こうとします。しかし、それが無いというのが現実です。

私は4月から大学の医学部、医療経営学で客員として教えます。そこでは、文系の方でも医療分野の経営に入り、会社を良くすれば理系の人材をどんどん雇えるということで、こういう方向で動いています。このような考え方などによって、企業の方の人材育成をすることが大事だと思います。だから、この辺

りの取組があればという感想です。

13番の事業は新規ですが、これまでも嫌というほど魅力発信、セミナーをやっている、私たち講師が重複し、人が足りずに困っているのが現状です。まだやるのかという気があり、違うところにもっと重点的に投資した方が成果が上がるのではないかと感じています。

そういう意味で、中小企業の医療ロボットの周辺機器の開発技術を売り込もうとやっていますが、こういうところこそ、ぜひ支援があればと思います。しかし、中途半端に医療とロボットが分かれています、うまく合う分野がありません。神戸・兵庫の一番魅力であるのはロボット産業です。そこで、全分野にわたるような大きなくりにしていただければ良かったというのが感想です。

○県産業労働部長

若者が出て行ってしまうのはどういうことか分析していると、IT関係では企業が東京一極集中していました。そこで、東京から呼んでくるような形にしようと、神戸市と一緒に取組もうとしています。

もう一つは、企業はPRが下手だということです。ホームページが半年前から更新されていないことも見受けられます。この辺りに補助できないかとも考えています。また、給料を上げてくれとは県から言えないので、福利厚生の実を支援するといった形を考えていますので、よろしくお願いします。

○事務局

一点だけ補足で説明します。2番のロボット実用化・普及促進事業は、医療用・介護用に限らない、産業用ロボットの開発支援です。従って、いかなる形態・形式のロボットでも支援を受けることが可能です。ただ、補助額が150万円ということで、お考えの規模と合うかどうかはありますが、どのような分野でも対応したいと思います。

○B委員

人材について一言加えると、大学は、産学連携で工学フォーラムや人材教育を行っています。最近ではベンチャー企業を立ち上げると、学生はそちらに移行します。自分がやってきた研究を社会に生かしたいという気持ちが高いので、社会、企業へ参加させながら地元企業ともネットワークを作るといったやり方があるかと思っています。このように、ベンチャーが今後、一つのキーになるかと個人的には考えています。

○事務局

ベンチャーについて、私どもは、起業・創業の支援をしており、特に来年からは、若手起業家の支援事業を始めます。立ち上げ部分に100万円、1/2の補助です。また、ベンチャーをいかに育てていくかは非常に重要だと思っており、新産業創造ファンドというものを設けています。このほか、新事業開発の際の無利息の融資も実施しています。これは資本制ローン、無利息ローンで、こう

した貸付の制度もあります。その辺りも十分PRしていきながら、ベンチャー支援強化をしていきたいと思っています。

○E委員

私からは、また別の切り口で二点申し上げます。一点目は、ベースがあってこそ次世代産業だということです。私どもは、中小企業に入った従業員の方々に、ベースとして、技術やものづくりをしっかりと学んでもらうことを進めています。新卒の方をはじめ、特に理系の方が入ってくるのは難しいですので、文系の方、場合によっては海外の方々が企業に入ってきます。その方々に、ベーシックなものづくりの技術を教える機関、あるいはそういう機能が必要だと思います。

もう一点は、専門性だと思います。私どもは、このプロジェクトの支援事業で、ものづくりに関わる研究会、専門性の高い話ができる場を作っています。専門性とは、学校の先生にテキストを教えるということではなく、現場で感じられるような生の声を自分の耳の中に入れて、頭で考えることです。要は、先端企業の現場見学です。あるいは生の声を、例えば社長たちに伝える場が中小企業には本当になくて、この辺りを進めているところです。

○県産業労働部長

ベーシックな面は忘れていません。県では、障害者訓練を除くと、職業訓練校を三つほど持っています。そこでの訓練のほか、委託によってOJTの訓練もお願いしていますので、その点は十分認識しています。

ただ、今欠けていると思うのは、若い子たちにもものづくりの魅力を教えることです。油にまみれて仕事するのは嫌だというような感じが最近はあるので、そうではなく、生まれたところで就職して、近くの工場に行ってもらって、いかに魅力的かを伝えていかないといけないと思っています。

また、産学官連携が大事だということを認識しており、工業技術センターのサテライトを姫路に新しく作り、県立大学姫路書写キャンパスの中に金属新素材の研究センターを開設しようと思っています。「ひょうごメタルベルト」という言葉を作りましたが、兵庫県には新素材の関係が非常に多く立地していますので、ぜひ県立大学にご協力をお願いしたいと思います。神戸大学についても、水素などの面で連携をよろしくお願いしたいと思います。

産学官連携が今、一つのキーワードになっています。知の拠点は大だと私どもは認識していますので、その点でのご支援をお願いします。各実施機関においても、私どもも最大限頑張って予算確保していきますので、新たな課題に向かいご協力をお願いします。

○F委員

神戸大学をトップにして、COC+という事業を実施しています。COCは、Center of Communityのプラスで、特に、学生の地元の定着数を上げようという動きをやっていて、来年度から4年目に入ります。恥ずかしい話ですが、県

立大学に入学する県内出身者の割合は6割です。また、今年、県内に本社のある企業に就職したのは36%で、去年より3%下がっています。

景気が良いから、学生は一部上場に簡単に入ってしまう。県内には優秀な企業が数多くあると思うので、学生の目を向けることもやっていかないとはいけません。例えば、社長カフェで県内の中小企業の社長を招いて、学生と小さいグループでディスカッションをしながら魅力を伝えることが考えられます。また、県内企業の現場工場に学生を連れて行く取組は、工業会とのつながりで今年も10社以上にお世話になっていると思いますが、そういう地道な取組をやっていくしかないかと思っています。

一方で、学生に企業を紹介する際、学生はホームページを見ますので、中小企業が積極的に広報活動をしなさいといけません。そこを大学と企業が一緒に、あるいは産学官連携でやっていけたらと思います。

○事務局

それでは、これで意見交換を終了します。皆様、本日は、ご多用のところありがとうございました。本日のご意見も踏まえ、新たなプロジェクトを進めていきますので、今後ともよろしくお願ひします。